

# 新しい街路樹用中高木 剪定マニュアル



2025年3月  
(公財) 東京都農林水産振興財団  
東京都農林総合研究センター 緑化森林科



## 目次

1. 本マニュアルについて	2
2. 提案する新しい街路樹中高木	3
3. 各樹種の剪定方法と注意点	
①イロハモミジ ‘司シルエット’	4
②サクラ ‘天の川’	6
③マグノリア ‘ワダスメモリー’	8
④常緑ヤマボウシ (ホンコンヤマボウシ)	10
⑤ソヨゴ ‘ハラシマ’	12
⑥トキワエゴノキ	14
⑦ヒメユズリハ	16
⑧モチノキ ‘オウゴン’	18
4. 留意点	20

## 1. 本マニュアルについて

都内において、街路樹は都市部の貴重な緑として重要な役割を担っている。街路樹には「景観向上」、「環境保全」、「緑陰形成」、「交通安全」、「防災」の5つの機能が求められていると言われている（街路樹剪定ハンドブック、2006年4月発行、p10）。例えば、落葉樹の冬の芽出しや紅葉など季節を感じさせる機能、車の排気ガスに含まれる大気汚染物質の吸収機能、夏の日差しを遮ることによる道路の温度上昇の抑制機能、道路と歩道の境界としての機能、火災が起こった際の延焼抑制機能などであり、近隣の住民に加え道路を利用する全ての人にとって欠かすことができない存在となっている。

都内の街路樹について、植栽本数が多い樹種を順番に並べると、上位10位まではハナミズキ、イチョウ、サクラ類、トウカエデ、ケヤキ、プラタナス類、クスノキ、マテバシイ、ヤマモモ、コブシとなっている。これらの樹種のうち、ハナミズキ、コブシを除いた8樹種は高木化しやすい樹種で、樹種特性を生かして管理するためには枝葉を伸ばせる十分な空間が必要になる。しかしながら、都内の道路は幅員が十分ではない所が多く、そうした場所にこれらの高木化しやすい木を植栽すると、枝が道路にはみ出したり、建物に枝がぶつかったりするなど、様々な問題が生じる。それ以外にも、高木化した街路樹は葉をたくさんつけるため、秋になると一斉に落葉し、落ち葉清掃の管理が増加する。

そのため、都道の街路樹では太い枝の部分でぶつ切り剪定される場合が多く見られている。しかし、こうした剪定はその木の特性を生かしていないばかりか、木の健康状態に悪影響を及ぼすことで枯損の原因になったり、景観を悪化させたりする。

そのような状況の中、東京都は2011年に「街路樹ガイドブック」発行した。このガイドブックは新しい街路樹を提案するものであり、もともとの樹種特性として枝張りが広がりにくいなど狭小街路への植栽が可能な樹種も掲載されている。しかしながら、そうした樹種の基礎的な情報は記載されているものの、具体的な剪定管理方法については情報が無かった。

そこで本マニュアルでは、東京都農林総合研究センターで実施した試験研究結果をもとに、新しい街路樹用中高木について適切な剪定方法や注意点をとりまとめた。このマニュアルが地方公共団体等の街路樹担当者等、街路樹管理に携わる方々の樹種選定や剪定管理に活用されれば幸いである。

## 2. 本マニュアルで剪定強度を示す街路樹中高木

本マニュアルで適切な剪定強度を示す新しい街路樹用中高木は、以下の8樹種である。

- ①イロハモミジ ‘司シルエット’
- ②サクラ ‘天の川’
- ③マグノリア ‘ワダスメモリー’
- ④常緑ヤマボウシ (ホンコンヤマボウシ)
- ⑤ソヨゴ ‘ハラシマ’
- ⑥トキワエゴノキ
- ⑦ヒメユズリハ
- ⑧モチノキ ‘オウゴン’

これらは、枝が横に広がりづらい、成長が遅い、近年街路樹として利用が増加している、などの特徴があるもので、それに加えて花や実、新葉の発色、紅葉が美しいなど、観賞性の面からも優れた特性を持つものもある。

これらの樹種について、表の通り、剪定強度を3段階（弱、中、強）に設定し、無剪定とあわせて2020年3月から2023年12月にかけて長期的に管理し、それぞれの剪定強度における樹形の変化を記録した。

次章で、各樹種の特徴と剪定のポイントを記すとともに、剪定強度による樹形の違いを写真で示し、どの樹種がどの剪定強度が推奨されるか記載した。

表：剪定強度ごとの剪定内容

剪定強度	剪定の内容
無	剪定無し。（ひこばえの除去のみ実施）
弱	徒長枝やひこばえなどの明確な不要枝を取り除くとともに、樹冠から飛び出た枝を切りつめる。
中	横方向の枝を切り詰めるとともに、樹体内部の上方向に立ち上がった枝や、木の内部方向に向かっている枝など樹形を乱す枝を半分程度切りとる。
強	横方向の枝を強く切り詰め、さらに、立ち上がった枝や、木の内部方向に向かっている枝の大半を根元から切りとる。

### 3. 各樹種の剪定方法と注意点

- ①イロハモミジ ‘司シルエット’ (*Acer palmatum* ‘Tsukasa Silhouette’)  
ムクロジ科カエデ属 落葉樹 最終樹高 (推定) : 6~7m

成長特性 : 幹が1本真っすぐに伸びやすいため、細身の樹形に仕立てることができる。枝の伸びが旺盛で、太く長い枝が発生しやすい。

観賞特性 : 真っすぐに伸びた樹形と秋の紅葉が美しい。

病虫害 : 特になし



#### 剪定のポイント

- ・イロハモミジ全体の特徴として、勢いよく長く伸びる枝 (徒長枝) が発生しやすい。これを放置しておくと樹形が乱れるため、そうした枝は根元付近で切り落とす。ごく細かい小枝をなるべく残す。



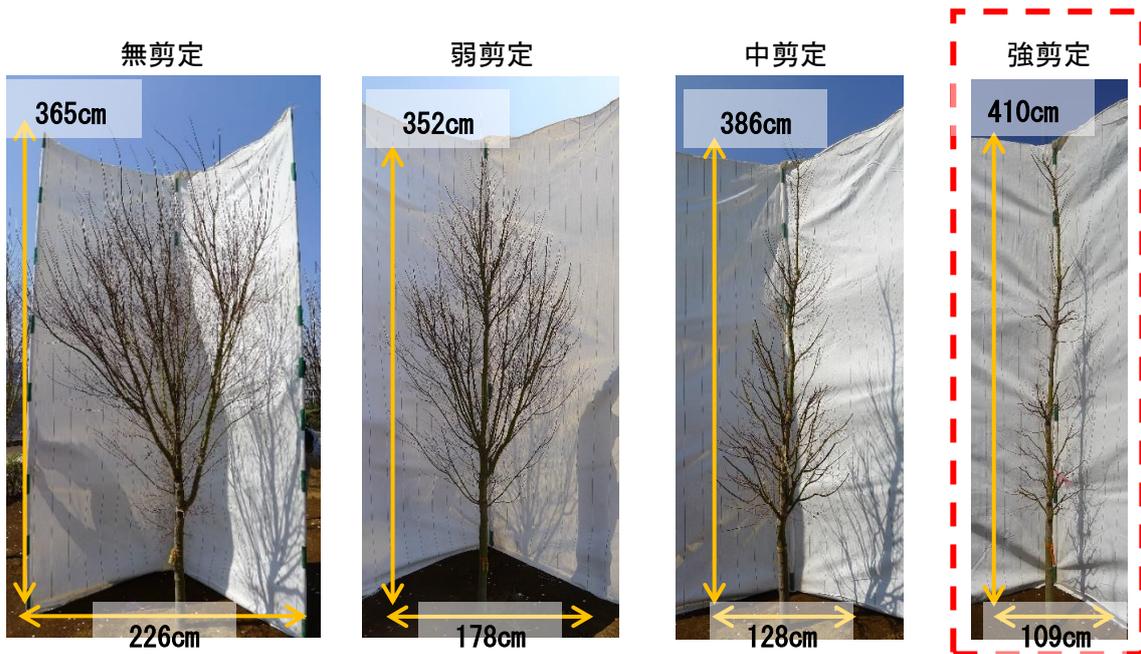
太くて長い枝は、細い枝がある手前で切り落とすとよい。切り口が大きい場合はペーストタイプの殺菌剤を塗布して切り口を保護する。

推奨される剪定強度：**強剪定**

- ・ 植栽初期から毎冬強剪定を行い、横方向もしくは斜め上方に強く伸びた枝を切り詰めて小枝を増やすことで樹種特性である細身の樹形に整えることができる。

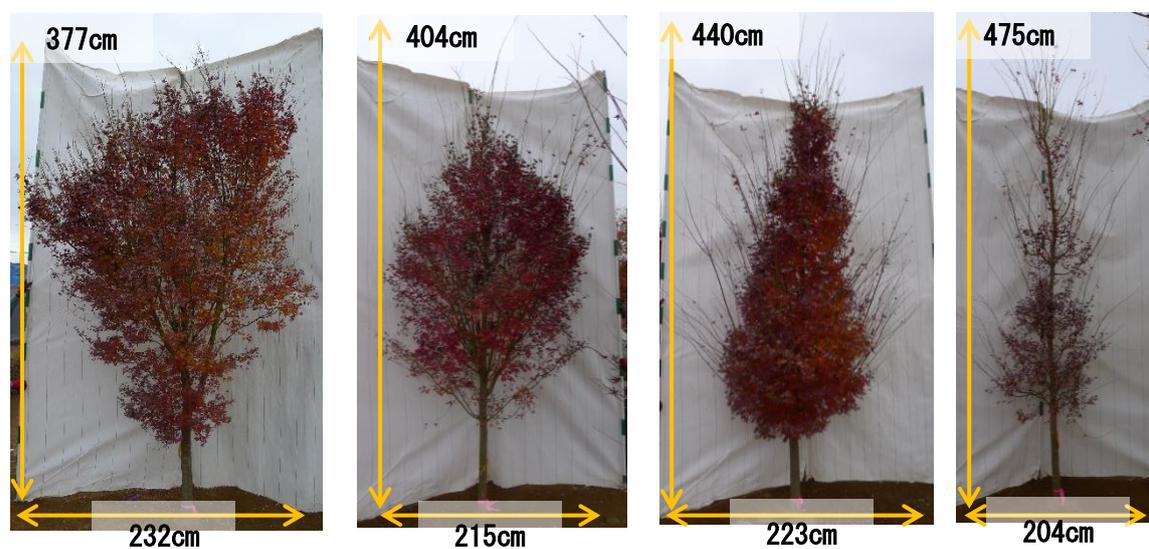
剪定直後の様子

(2023年3月撮影)



枝伸長後の様子

(2023年12月撮影)



②サクラ ‘天の川’ ( *Cerasus serrulate* ‘Amanogawa’) )

バラ科サクラ属 落葉樹 最終樹高 (推定) : 6~7m

成長特性 : 枝が真上方向に伸びる性質があり、細身の樹形になりやすい。若木のうちは生育が旺盛で1年で1m以上伸びる枝もある。

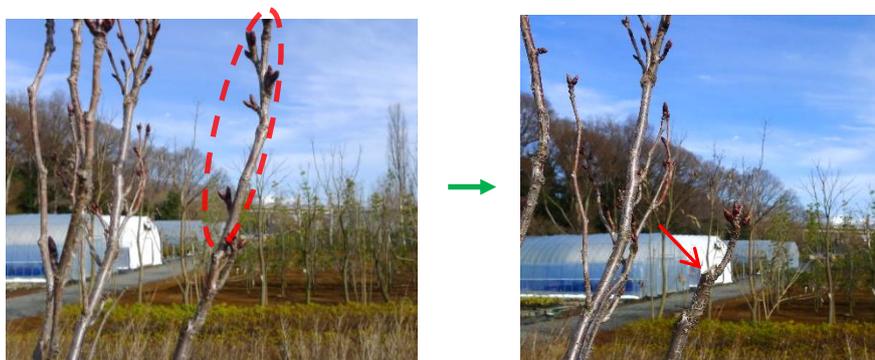
観賞特性 : サトザクラの一種で4月下旬に八重咲の花を咲かせる。

病虫害 : モンクロシャチホコ等の毛虫類



剪定のポイント

- ・もともと細身の木であるが、より細身に仕立てたいときは強剪定を行い、勢いよく伸びた枝を短く切ると良い。枝は真上方向に伸びる性質が強いので、剪定を行わなくても縦長の樹形になる。



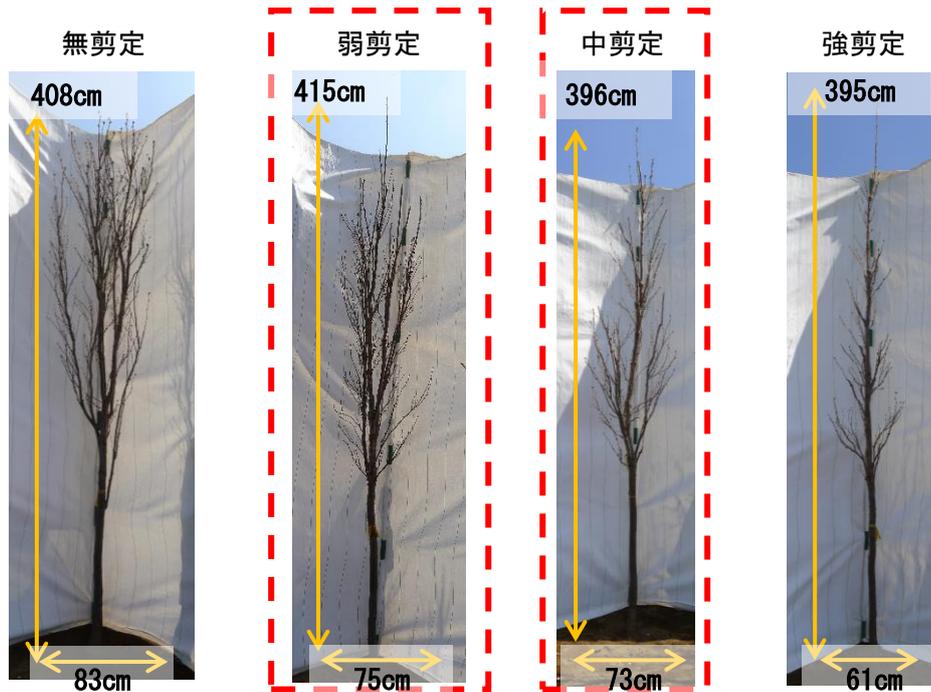
長い枝を途中で切る場合には、短い枝分かれ部分を探し、その上に鋏をあてて枝分かれを残すように切る。切り口にはペーストタイプの殺菌剤を塗布する。

推奨される剪定強度：**弱剪定**、**中剪定**

- ・ 変な方向に伸びた枝を取り除き、長く伸びすぎた枝を切り詰める程度でよい。強く細身にしたい場合は強剪定も可能だが小枝を残すようにする。

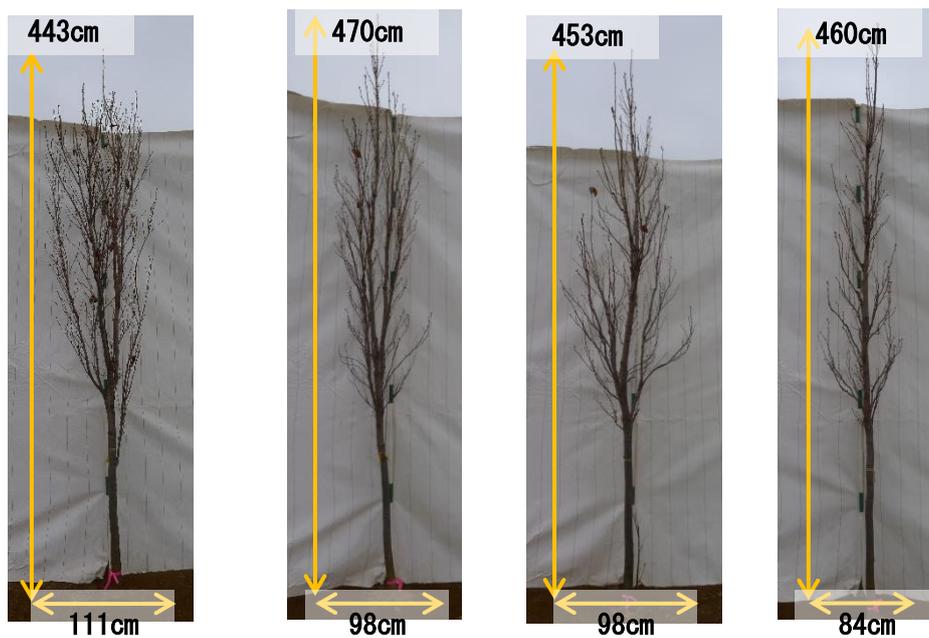
剪定直後の様子

(2023年3月撮影)



枝伸長後の様子

(2023年12月撮影)



③マгноリア ‘ワダスメモリー’ (*Magnolia* ‘Wada’s Memory’)

モクレン科モクレン属 落葉樹 最終樹高 (推定) : 5~8m

成長特性 : 枝の伸長が緩やかでかつ、枝ぶりのバランスがよく剪定管理の頻度が少なく済む。

観賞特性 : 3月下旬から4月にかけてハクモクレンやコブシによく似た白い花を咲かせる。木全体が真っ白になる。

病虫害 : 特になし



剪定のポイント

- ・生育は比較的緩慢で、徒長枝以外は1年で伸びる枝の長さはそれほど長くなく、強く剪定する必要はない。



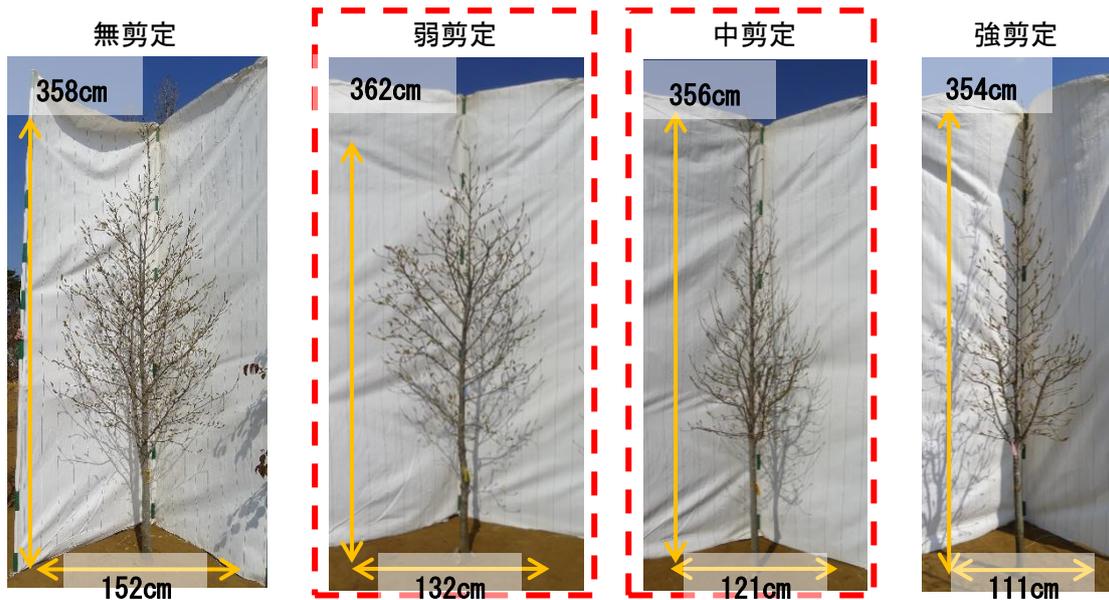
真上方向に伸びる枝など、樹形を乱す枝がある場合は根元から切りとる

推奨される剪定強度：**弱剪定**、**中剪定**

・無剪定でも良好な樹形は維持しやすいが、まれに発生する徒長枝や変な方向を向いた枝などを切り詰めたり取り除いたりする程度の剪定を行うと、長期間良い状態を維持できる。

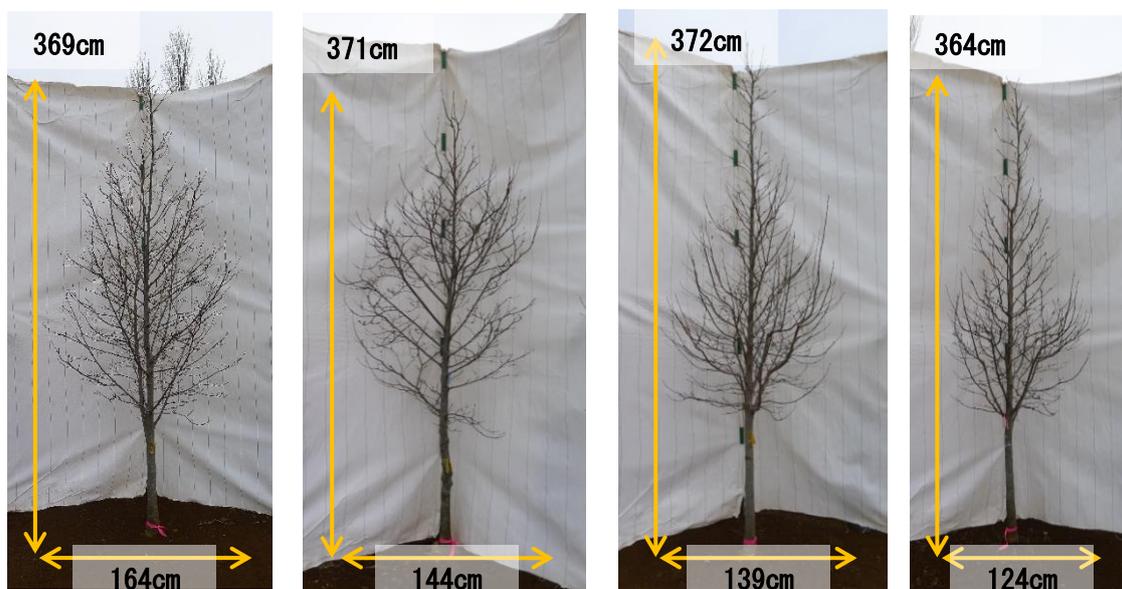
剪定直後の様子

(2023年3月撮影)



枝伸長後の様子

(2023年12月撮影)



- ④常緑ヤマボウシ 別名：ホンコンヤマボウシ (*Cornus hongkongensis*)  
ミズキ科ミズキ属 常緑樹 最終樹高 (推定)：5～8m

成長特性：主幹は真っすぐ伸びやすく、剪定管理によって細身に仕立てることができる。ただし枝の伸長は速く、向きの悪い枝を残したままにしておくと樹形が乱れやすい。

観賞特性：6月に白い花をつけ、木全体が真っ白になる。

病虫害：特になし



#### 剪定のポイント

- ・成長は比較的旺盛なので、剪定せずに放置していると、変な方向に長い枝が伸びたり、内部の枝の数が多くなりすぎたりするため、こまめな剪定が必要である。また、横方向の枝から立ち枝（真上方向を向いた枝）が発生しやすく、そうした枝は早めに切り取る必要がある。



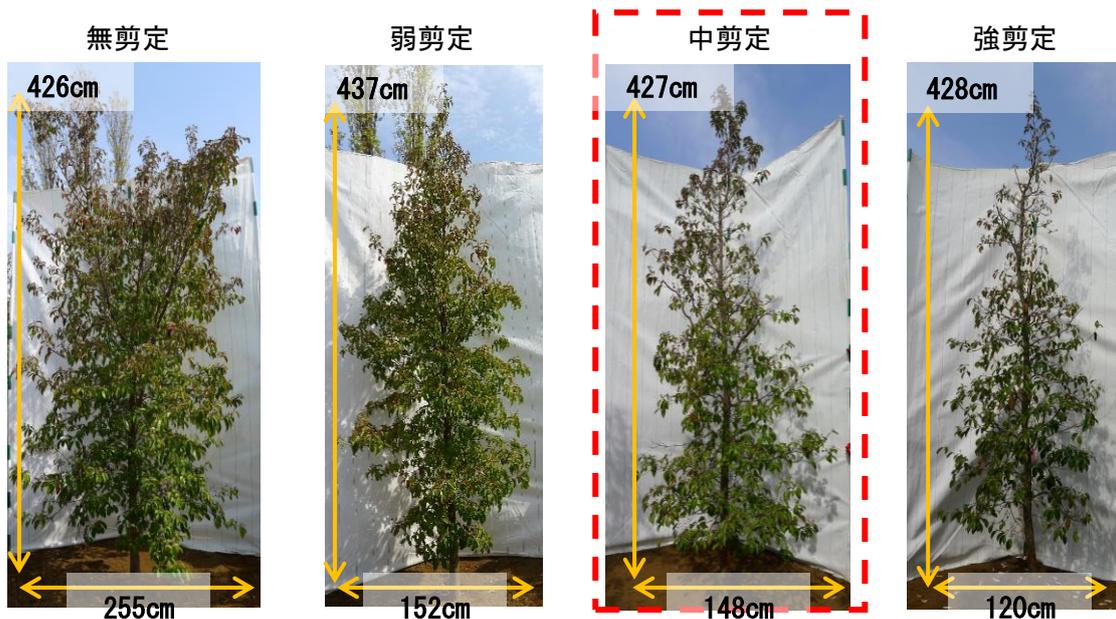
長く伸びた枝は枝分かれの位置で切り取る。

推奨される剪定強度：**中剪定**

- ・枝の伸びが良く、木の内部も混みやすいので、弱剪定では枝が混み合いすぎてしまう場合がある。そのため、中剪定程度の剪定を行い、長く伸びた枝を切り詰め、内部の内向きや上向きの枝を取り除くことで、樹形と風通しを良好な状態に維持できる。

剪定直後の様子

(2023年4月撮影)



枝伸長後の様子

(2023年12月撮影)



- ⑤ソヨゴ ‘ハラシマ’ ( *Ilex pedunculosa* ‘Harashima’)  
モチノキ科モチノキ属 常緑樹 最終樹高 (推定) : 6~8m

成長特性 : 幹が1本真っすぐ伸びる。枝の伸長が緩やかで細身な樹形に仕上がてやすい。

観賞特性 : 花は目立たないが、秋に美しい赤い実をつける。

病虫害 : ルビーロウカイガラムシ



#### 剪定のポイント

- ・成長は比較的緩慢なため、強く剪定を行う必要はない。徒長枝のような樹形を乱す枝や、変な方向の枝を根元から取り除いたり、樹冠からはみ出している枝を切り詰めたりする程度で良い。



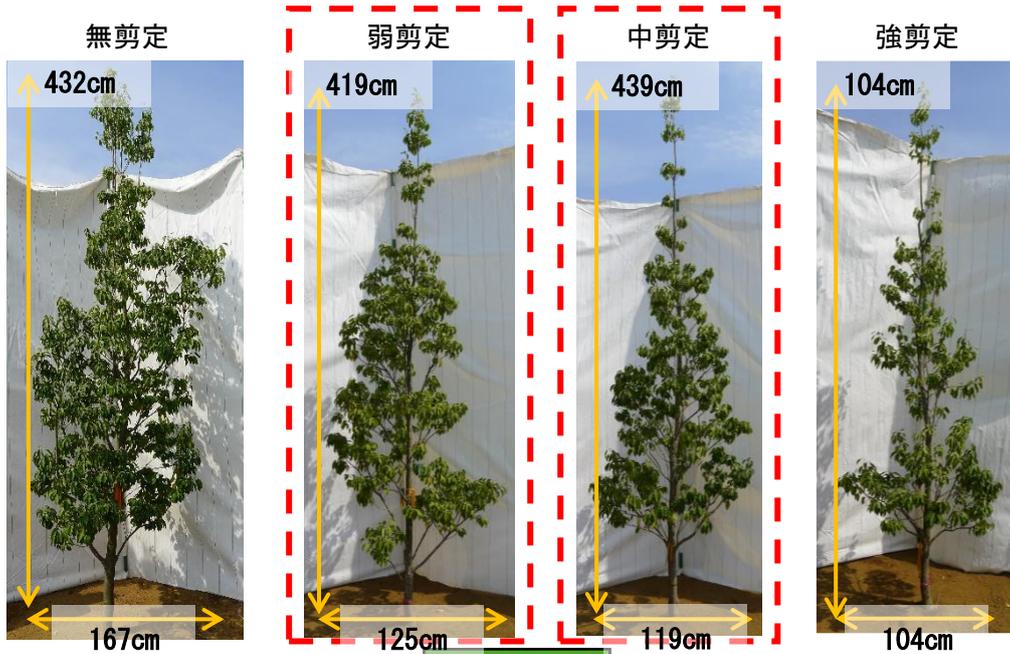
木の内側に向かって伸びている枝は樹形を乱すので根元から切りとる。

推奨される剪定強度：弱剪定、中剪定

- ・毎年剪定を行う場合、長く伸びすぎた枝を切り詰めたり、変な方向の枝を切り取ったりする程度で良好な樹形を維持できる。

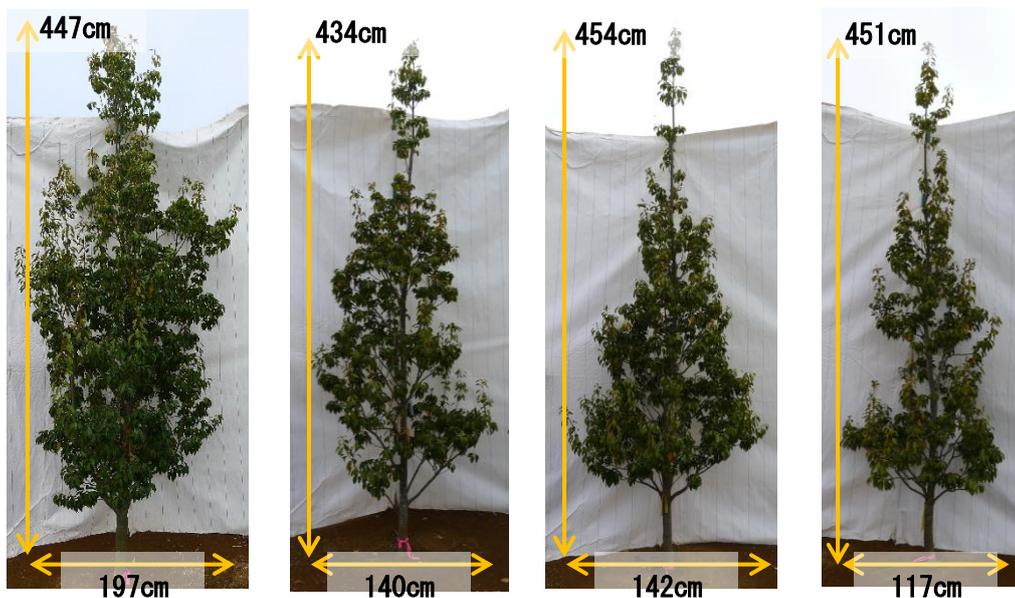
剪定直後の様子

(2023年4月撮影)



枝伸長後の様子

(2023年12月撮影)



⑥トキワエゴノキ (*Huodendron tibeticum*)

エゴノキ科フオデンドロン属 常緑樹 最終樹高 (推定) : 6~8m

成長特性 : 緑量が多いが、枝の伸びは緩やか。

観賞特性 : 幹の色が赤茶色で目立ち、樹皮がはがれてサルスベリのようにツルツルしている。5月に白く芳香のある花を咲かせる。

病虫害 : ルビーロウカイガラムシ



剪定のポイント

- ・ 1本1本の枝の伸びは緩慢なため樹形は自然に整いやすいが、細かい枝が多数発生するので、樹体内部が混み合わないようには立ち枝や内向きの枝や下向きの枝など不要な枝を取り除く必要がある。



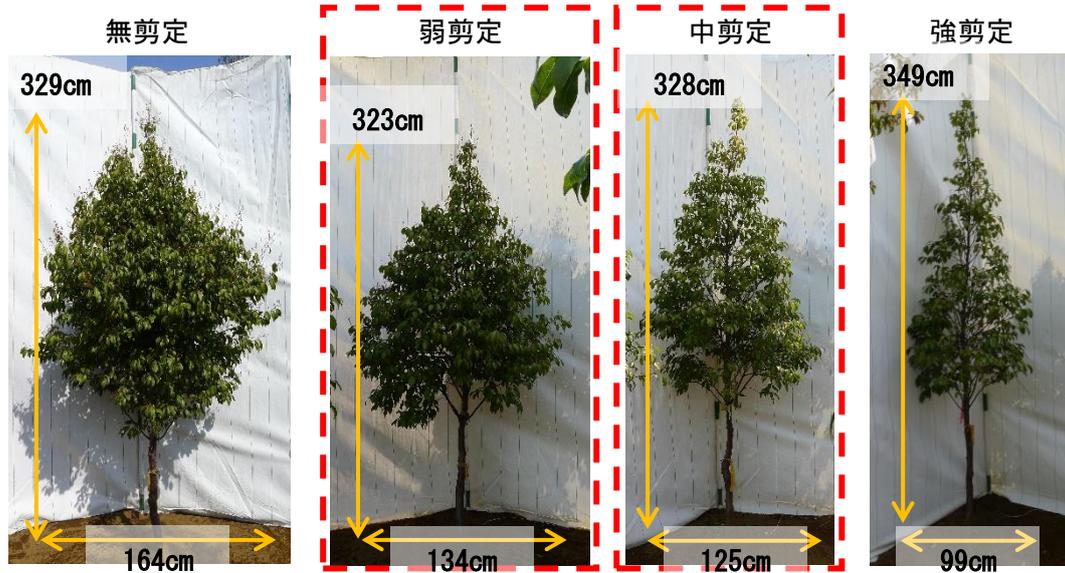
長い枝を短く切る時は、短い枝との分岐点で切るようにする。

推奨される剪定強度：**弱剪定**、**中剪定**

- ・樹冠から飛び出した枝を切り詰め、樹体内部の立ち枝を取り除く等、枝数を減らす程度の剪定で良好な樹形を維持できる。

剪定直後の様子

(2023年4月撮影)



枝伸長後の様子

(2023年12月撮影)



⑦ヒメユズリハ (*Daphniphyllum teijsmannii*)

ユズリハ科ユズリハ属 常緑樹 最終樹高 (推定) : 6~8m

成長特性 : 太い多数の枝が発生する。

観賞特性 : 花は目立たないため、葉の緑や樹姿を楽しむ。

病虫害 : クロハウジャク



剪定のポイント

- ・太い枝が多数発生するので剪定をしないと木の内部が密になるため、枝を減らすと良い。



長い枝を短く切る時は、葉がついている部分のすぐ上で切るようにする。

推奨される剪定強度：**弱剪定**、**中剪定**

- ・枝の発生量が多いので、内部の枝を減らしたり、伸びすぎた枝を切り詰めたりする。強剪定を行うと徒長枝のような勢いの強い枝が発生してしまうので、強く剪定しすぎないようにする。

剪定直後の様子

(2023年4月撮影)



枝伸長後の様子

(2023年12月撮影)



⑧モチノキ ‘オウゴン’ ( *Ilex integra* ‘Ougon’)

モチノキ科モチノキ属 常緑樹 最終樹高 (推定) : 5~6m

成長特性 : 新葉が黄色で枝の伸長が緩やかなため樹形を維持しやすい。緑量は多い。

観賞特性 : 春の新葉の時期は木全体が明るい黄色になる。秋から冬にかけて赤い実をつける。

病虫害 : ルビーロウカイガラムシ



剪定のポイント

- ・新葉が黄色で葉緑素量が少ないため、枝の伸びは基本種よりも緩慢である。そのため、変な方向に向いた枝を根元から切り取ったり切り詰めたりする程度で整った樹形を保つことができる。



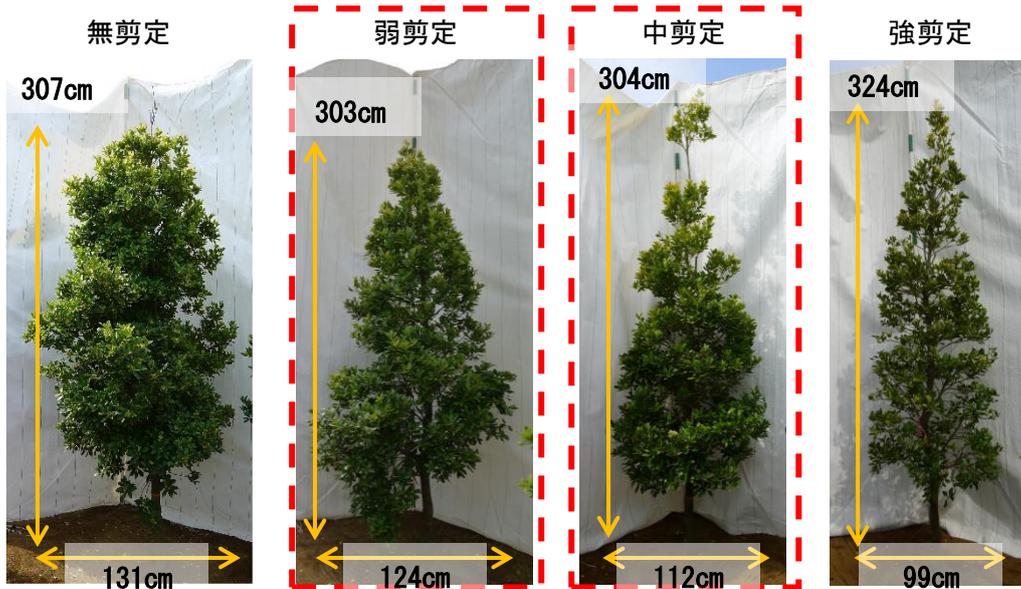
長い枝を切る時は、枝分かれの部分まで切り戻す。

推奨される剪定強度：**弱剪定**、**中剪定**

- ・細かい枝が多数発生するので、木の内部が密になっているときは上向きの枝を取り除くなどして枝数を減らすと良い。樹形を細くしたいときは、全体的に枝を切り詰めると良い。

剪定直後の様子

(2023年4月撮影)



枝伸長後の様子

(2023年12月撮影)



#### 4. 留意点

今回の試験において、伸びた枝を強く切りつめる場合に「強剪定」という表現を用いたが、この場合でも太い枝をぶつ切りにするのではなく、必ず細い枝との枝分かれ部分で切るようにする。

#### 悪い例



切り詰めた枝に葉も枝分かれも無く、一本棒になってしまっている。

今回の試験では設定した剪定強度で毎年剪定を行ったため、剪定強度が弱くても樹形が乱れたり、樹冠が大きくなりすぎたりしなかった。しかし、隔年で剪定を行う場合などは、今回推奨とした剪定強度より強めに剪定を行う必要が生じると考えられる。また、写真で示した各樹種の生育状況は立川市内の圃場で栽培したときのものであり、実際の街路の植栽樹等、異なる環境で栽培した際には生育スピードや樹形なども異なってくる可能性がある。そのため、このマニュアルに書かれていることを実際の場面に全てあてはめようとせず、状況に応じた剪定が必要である。